

# 日本英学史学会 中国・四国支部

## ニューズレター

No.46

*Historical Society of English Studies in Japan, Chugoku-Shikoku Chapter*

### 平成18年度 中国・四国支部総会

#### 第1回(通算54回)支部研究例会のご案内

拝啓 新緑の候、会員の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より当支部の発展のために暖かいご支援とご協力をいただき心から感謝申し上げます。

さて、平成18年度支部総会、及び第1回(通算第54回)支部研究例会を下記の要領で開催いたします。研究例会では田村道美先生、風呂鞏先生による研究発表が予定されています。皆様ぜひお誘いあわせの上、ご参集くださいますようお願い申し上げます。

末筆ながら、会員の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。 敬具

日本英学史学会中国・四国支部事務局

記

日時：平成18年5月27日(土)午後1時 受付

場所：広島県立生涯学習センター 視聴覚室(4F)

〒732-0052 広島市東区光町二丁目1-14

(JR広島駅より徒歩10分)

TEL：082-262-2411

参加費：会員、非会員とも無料

受付を午後1時より開始します

#### プログラム

開会行事(13:30～)

・支部長挨拶

支部総会(13:35～)

- ・議長選出
- ・前年度会務報告(事務局)
- ・会計報告(会計担当理事)
- ・会計監査報告(会計監査)
- ・論文投稿規程の改定について(支部長)
- ・今年度行事計画(事務局)

研究発表(14:15～)

[1] 田村道美(香川大学)

「漱石と Cassell's National Library (2)

— A. Pope, *Poems: 1700-1714*の書き込みを中心に—

(休憩 15:15～15:30)

[2] 風呂鞏(比治山大学)

「Literary Assistant としての大谷正信」

閉会行事(16:30～)

・副支部長挨拶

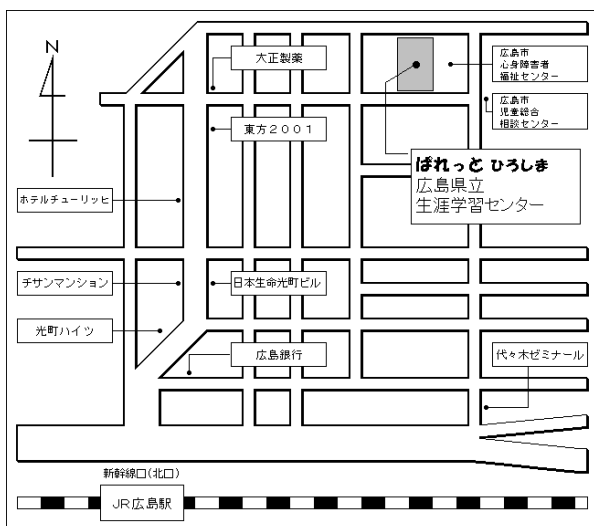
懇親会(17:30～)

- ・広島駅ビル内・銀座ライオンにて
- ・会費4,000円程度

(会場への交通案内は次のページ)

## <会場への交通案内>

(以下の情報は、広島県立生涯学習センター・ウェブページより)



- JR 広島駅新幹線口 (北口) から  
約 700 メートル
- JR 広島駅南口から約 900 メートル  
(駅構内地下自由通路を経由)

## 中国・四国支部ニュース

### ◆平成 17 年度第 2 回役員会報告

3月18日(土)午後2時より4時まで、支部役員会が開催されました。出席者は9名。議題および協議内容は以下の通りです。

#### 平成 17 年度第 2 回役員会議事録

日時：平成18年3月18日(土) 午後2時～4時  
場所：広島県立生涯学習センター第5研修室

議事：

#### ①平成 17 年度会務報告

事務局より、配布資料(ニューズレター抜粋)をもとに17年度の会務報告を行った。

#### ②新年度の行事計画

事務局の原案を元に平成18年度行事計画を協議し、以下の通り決定した。

#### 1) 研究例会

第1回 平成18年5月27日(土)

- ・広島県立生涯学習センター・視聴覚室
- ・例会当日、役員会と支部総会を開催する。

第2回 平成18年12月2日(土)

- ・開催地候補を第1案徳島、第2案高松とし、5月の役員会で決定する。
- ・例会当日、役員会を開催する。

#### 2) 支部研究紀要

『英学史論叢』第9号を5月の研究例会時に発行する。

- ・「研究論文」と「研究ノート」に合計8本の投稿があった。
- ・「英学史随想」は1本の投稿があった。

#### 3) ニューズレター

例年通り、以下の予定で発行する。

- ・No.46(平成18年4月)・No.47(平成18年7月)
- ・No.48(平成18年10月)・No.49(平成19年1月)

### ③財政問題について

緊迫した支部財政について協議した。今後、研究例会会場費と紀要印刷費の支出増が見込まれるため、新たな収入源として、次の2点を導入することとした。

#### 1) 紀要論文(研究論考・研究ノート)の掲載料

- ・掲載決定後、1本につき3,000円を徴収する。

(『英学史論叢』第10号より)

- ・頁数の上限を10頁に増やす。

(1頁38字×38行)

- ・学生会員の論文は掲載料を免除する。
- ・やむを得ず頁数を超過した場合は、規定により追加金を徴収する。
- ・英学史随想、英学史時評、追悼記などは事務局の依頼原稿であるので、掲載料を徴収しない。

#### 2) ニューズレターへの広告掲載

- ・1頁の4分の1サイズの広告を4回掲載で5,000円の広告料とし、広く会員に呼びかける。

#### ④紀要投稿規程について

- 1) 現行の投稿規程に次の2項目を加えることとした。
  - ・英字・数字はすべて半角文字とする。
  - ・最終原稿はプリントアウトしたものと合わせ、電子媒体によるデジタルデータを提出することを原則とする。
- 2) 掲載料徴収に関連して、以下の2点の修正、追加を行なう。
  - ・研究論考、および研究ノートは参考文献・資料・図版等を含め、10ページ以内とする。
  - ・研究論考、および研究ノートの掲載料は3,000円とする。ページ数を超過した場合、規定による追加分は執筆者の負担とする。

以上の改編を行なった上で、執筆者には投稿規程と標準書式の遵守を求めることとする。

#### ⑤その他

- 1) 紀要印刷費節減のため電子媒体による出版に切り替えてはどうかとの意見が出された。今後の検討課題とした。
- 2) 支部活性化について協議した。学生会員の論文掲載料免除など、具体的な方策により、若手の参加を促すことを確認した。
- 3) 研究論文の書式(注や参考文献等)に統一が取られていないとの意見があった。標準書式に基づき、各論文内で統一されておれば良いということになった。

※次回の役員会は、5月27日(土)の研究例会当日12時より、広島県立生涯学習センター4階 視聴覚室にて開催の予定です。

### 事務局よりお知らせとお願い

#### ①名簿の改訂について

別紙の通り名簿の改訂を行いますので、これまでの登録情報に変更のある方は事務局までお知らせください。お届けした「現在の登録情報」には、入力・印字の際の誤表記が多々見受けられると思われます。

特にお名前等の固有名詞にかかわる箇所について誤りがございましたら、何卒ご容赦ください。5月18日(木)までに修正のご連絡を頂ければ、訂正の上、例会時にお渡しする今年度の名簿に掲載いたします。詳細は別紙をご覧ください。ご協力の程よろしくお願いたします。

#### ②例会の出欠確認についてお願い

5月27日(土)の研究例会および懇親会の出欠につきまして、5月18日(木)までにメールやファックス等にてご回答くださいますようお願いいたします。

e-mail: umamoto@pu-hiroshima.ac.jp  
TEL&FAX: 0824-74-1725 (馬本研究室直通)

#### ③会費の納入について

5月27日(土)の研究例会へご参加の方は、2006年度会費(一般3,000円、学生2,000円)を受付でお支払いください。その際に『英学史論叢』第9号、および今年度の名簿をお渡しの予定です。

例会に参加されない方へは、例会終了後、今年度の紀要、名簿とともに、年会費用の振込み用紙をお送りしますので、お手元に到着次第、お振込みくださいますようお願いいたします。

なお、前年度までの会費を未納の方へは、複数年分をご請求申し上げます。ご協力のほど何卒よろしくお願いいたします。

#### ④研究発表者を募集します

今年度第2回研究例会(12月2日(土)四国で開催予定)の発表者を募集します。研究発表(口頭発表30分・質疑応答20分・計50分)をご希望の方は、9月末までに事務局へご連絡ください。特に若い会員の皆様の積極的なご発表をお願いします。

#### ⑤ニューズレター原稿募集

英学史にまつわる「エッセイ」「研究メモ」「読書ノート」などの原稿をお寄せください。いずれも400~800字程度。電子メールまたはワープロ印字原稿を事務局までお送りください。次号以降のニューズレターに掲載させていただきます。

英学史研究の「裾野」を広げるため、多数の皆様のご協力をお願いします。

## ⑥ニューズレター広告の募集

本ページの末尾のように、1ページの4分の1サイズの広告を募集します。ご自身の著書等、英学史に関わる広告を奮ってお寄せください。広告料は4号分のニューズレター掲載で5,000円です。なお、本ニューズレターは、毎号印刷版80部を発行しています。また、ウェブサイト上で広く世界に公開しています。(http://tom.edisc.jp/eigaku/)

## 広島英学史の周辺(12)

▼年度末に庄原で開かれた「元気な地域づくりセミナー」で話をする機会に恵まれました。題して「備北英学の系譜をたどる」。主に庄原英学校で用いられた英語教科書『ニュー・ナショナル・リーダー』や、庄原出身の森修氏による『ニュー・ナショナル・リードル独案内』について話題提供をしました。『独案内』では、英文中の各単語に添えられた訳語と番号をもとに、各語の訳をつなげて日本語の訳文を作っていく訳読法について紹介しました。蘭学の頃より行なわれてきたこの漢文訓読的解読法は、当時の素読・会読の過程と密接に関わりながら、英語の文法訳読法へ繋がっていくことを、茂住氏の研究とともに紹介しました。特に素読・会読は、生徒の自学自習の精神がなければ成立しないことを強調し、明治期の庄原英学校でもそうした学習法がとられていたであろうことや、その一貫として森氏による独習書が出されたであろうこと、などを話しました。▼英学史研究の面白いところは多々ありますが、一つ挙げるならば、そこで論じられる様々な事柄を、今の問題と結びつけて考えることのできる面白さ。今、同じキャンパスで地域連携の仕事を一緒にしている仲間たちから、「英学校を今に蘇らせる」活動

をせよ、とハッパをかけられています。▼その一つとして、今年度から稼働を始めたCALL教室の一般開放を検討中です。庄原はもともと学問に熱心な土地柄で、シニアの方々を含め、キャンパスへ足を運んでくださる市民の多い街です。庄原英学校の時代の「自学自習の精神」と、ハイテクが売りのCALL教室での学びを結びつけて、新たな教育研究を創造できればと思います。▼そういえば、県内の高校で初めてLLを設置したとされるのが庄原格致高校。その百年誌には、天井からたくさんのコードが垂れ下がったLL教室の写真が掲載されています。LL施設の取り付け完了が1964(昭和39)年(おや、また僕の生まれた年だ)。全国的にみても早い時期に、LL教室が県北の街で生まれていたのです。▼これからはCALLでの実践とともに、その「英学史的」な研究に取り掛かりたいと思います。ではその起源をどこに置くか。単なる機器の歴史ではなく、CALL学習の根源に関わる問題をコメニウスあたりまで遡ってみたいな、と思います。「挿絵、写真、スライド、映画、テレビのドキュメンタリーなどを教育に組み込む後年の技法の全ては、冗談抜きに、コメニウスに端を発する」(トム・マッカーサー『辞書の世界史』)という言葉が目に留まりました。▼では例会でお会いできますことを楽しみにしています。(馬)

日本英学史学会 中国・四国支部ニューズレター No. 46

2006年5月5日発行

発行 日本英学史学会中国・四国支部(代表 竹中龍範)

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町562

県立広島大学 馬本研究室内

電話&FAX: (0824) 74 - 1725 (直通)

e-mail: umamoto@pu-hiroshima.ac.jp

ホームページ: http://tom.edisc.jp/eigaku/

(広告見本)

(広告見本)

(広告見本)

## 日本英学史学会 中国・四国支部 ニューズレター

### 定期購読者募集中!

日本の英学史研究をアカデミックに推し進める日本英学史学会。その中でも古い歴史を持つ中国・四国支部が年に4回発行するニューズレター。年2回開催される研究例会の記事や、研究に役立つ情報コーナーなど、英学史研究者必読のクォーターリー。コラム「広島英学史の周辺」も好評?連載中。購読料は無料、ただし支部への会員登録が必要(年会費3,000円)。お申し込みは、事務局・馬本まで(e-mail: umamoto@pu-hiroshima.ac.jp / FAX: 0824-74-1725)。未来を勝ち取るのは、歴史を知る者だけだ!

(これは見本です)

(これは見本です)

(これは見本です)